

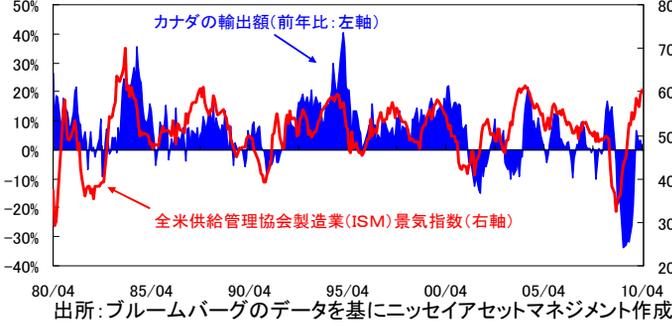
カナダについて(米国景気回復の恩恵を受ける国)

- ✓カナダ経済は輸出入や直接投資を通して米国経済との関係が深く米国経済回復の恩恵を受ける有力候補。
- ✓カナダは世界有数の資源国の一つであり、カナダドルは国際商品市況の需給やその価格に影響を受ける。
- ✓カナダ中央銀行は出口戦略への地ならしを始めた模様であり、このことはカナダドルの下支え要因に。

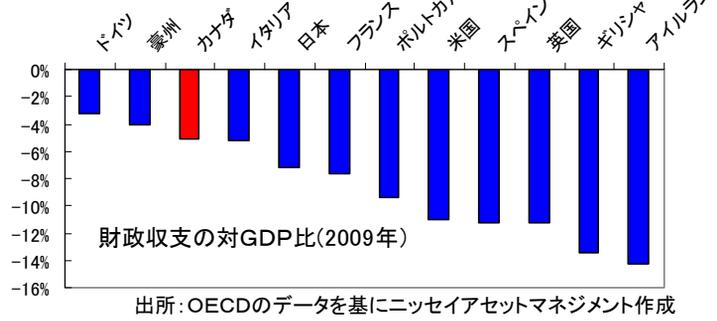
カナダ経済は、GDPに占める輸出額の割合が2009年末時点で33%と高水準の国といえます。米国、メキシコ、カナダの自由貿易協定であるNAFTA成立後は、米国経済の影響を多く受けてきました。特に輸出の約8割は対米輸出となっており、足元も米国経済の回復に連れカナダの輸出が増加し、景気回復を主導してきました(図表①)。

世界的に財政規律問題が市場の注目を集めていますが、カナダの財政規律は相対的に健全な位置にあります(図表②)。

【図表①】



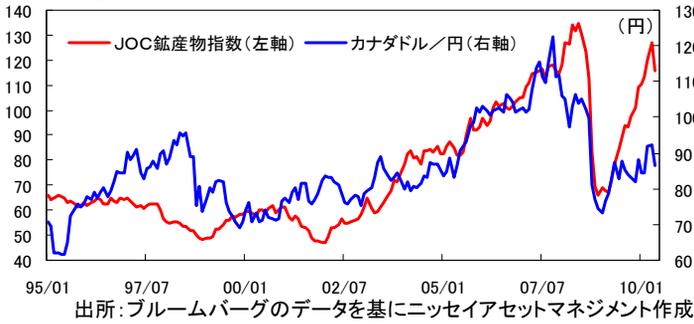
【図表②】



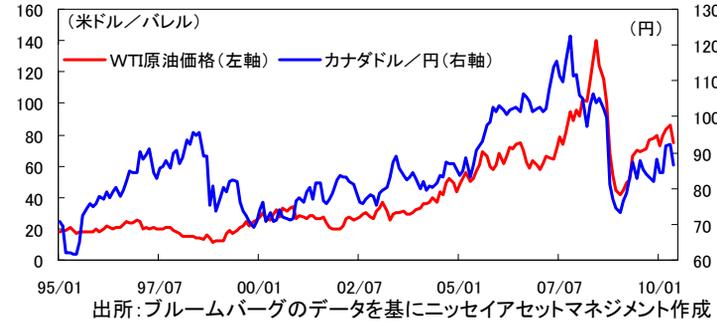
カナダの主要輸出品目は、約31%(2008年時点)が原油、石油ガス、アルミニウム等の鉱物性生産品です。このため、これらの国際商品価格指数の先行きにカナダドルは影響を受ける傾向があります(図表③④)。

原油価格や鉱産物指数は、世界景気のリバウンドとともに上昇する傾向があります。OECDの景気先行指数は景気のリバウンド基調を示唆しており、資源の需要も相応な伸びが見込まれ、カナダドルの支持的な環境は維持されるものと考えます(図表⑤)。

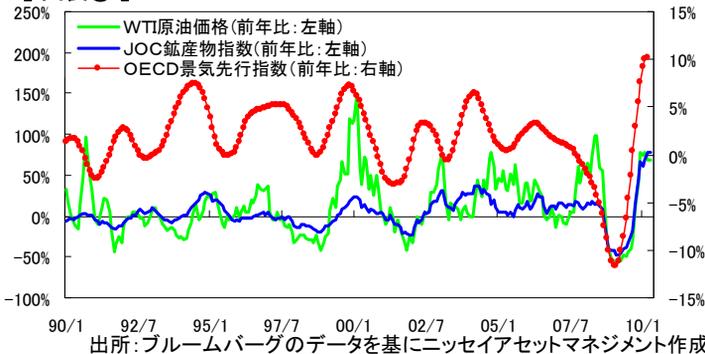
【図表③】



【図表④】

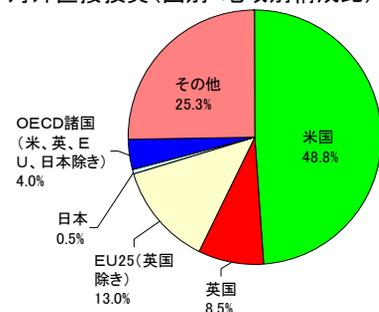


【図表⑤】

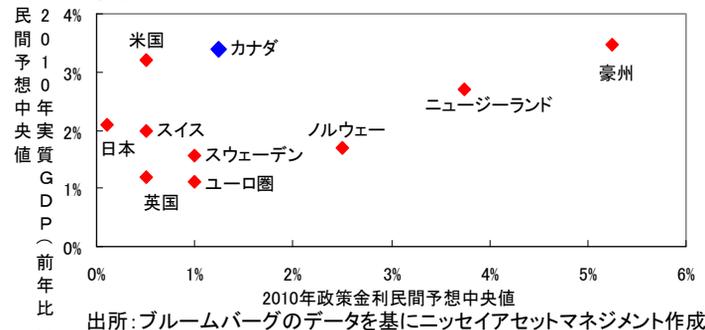


米国経済とカナダ経済の結びつきは、カナダの対外直接投資の対米比率の高さにもうかがえます(図表⑥:2009年末時点)。

【図表⑥】対外直接投資(国別・地域別構成比)



【図表⑦】



カナダ中央銀行は、4月以降、「異例の金融緩和を解除することが適切である」との声明を出し、出口戦略に向けた地ならしを始めた模様です。また、図表①で示唆されている米国景気回復の恩恵を受け、カナダの景気の見通しも改善しています。

この現状を民間の金融機関の予想を基に、グラフ化し、他国と比較したのが図表⑦です。ファンダメンタルズだけに着目すると、図表の右斜め上方向に位置している国(景気見通しが良く/政策金利予想が高い)は選好されやすい通貨群といえるかもしれません。カナダと日本の比較で見ると、カナダに分がありそうです。

当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。 <審査確認番号H22-TB41>